

藥品呈書 (譯文)

昭和二十年八月二十三日

米國陸軍軍醫大尉

シドニー、イー、サイド

日本廣畑製鐵病院長並職員殿

- 一、我々ハ米國ニ歸國スルコトニナツタノデ米國赤十字藥品が必要以上ニ在ルコトニナリマシタ。私ハ赤十字ハ國籍ノ區別ヲシナイコトヲ知ツテ居リ總テノ病人ハ同様デアルト考ヘマス。其故私ハ我々ニ必要デナイ藥品ハ原則トシテ米國俘虜ニ供給サレタモノデアリマスガ貴方ニ贈ル様私ニ要望スルデアラウト考ヘマス。
- 二、其故何卒氏ノ品ヲ受ケタ貴方が最上ト考ヘル様御使用下サイ
- 三、實際同ジ人道ノ精神ニ於テ我々が今貴方ニ贈ル以上ノコトヲ貴方ハ我々ニシテ呉レマシタ。我々ハコレ以上贈ル物ガナイノハ残念デスガ我々が贈ル精神ヲ汲ンデコレヲ御受取り下サイ
- 四、此ノ品ハ貴方ノ必要ニ比ベレバ少量デスガ少シハ足シニナルト思ヒマス

五、平和ノ將來ニ於テ成功ト幸福ヲ貴方ニ希望シマス。

文書第一に關する證明書

自分廣田正雄は昭和十三年八月以降現在に至るまで引續き日本製鐵株式會社廣畑製鐵所病院長の職にあるものであります。茲に添付した英文により書かれた全文一頁の書面はその日附の當時入阪俘虜收容所廣畑分所に收容の俘虜より自分に手渡された感謝狀に相違ありません。これを證明します。

昭和二十二年五月十四日

於 兵庫縣姫路市飾磨區英賀甲一六二五番地
日本製鐵株式會社廣畑製鐵所

病院長 廣畑 照輝

右署名捺印は自分の面前で病院長がなされたものであることの證明を致します。

同日於同所

上塚 萬壽 男